



令和4年1月6日

学校法人脇谷学園
静岡南幼稚園
園長 青島範明

「時代の変化に応じた教育の在り方を求めて～幼児教育の現場から～」

皆様、新年あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

思い返すに、この2年間は、新型コロナウイルスに振り回されてきました。一旦は、ワクチン接種が広まり、感染状況に陰りも見え始め、少し穏やかになってきましたが、昨年末ごろから、また新たなオミクロン株による感染拡大が懸念される状況になり、まだ予断を許さぬ状況が続くことを感じさせる年明けとなりました。

こうした状況の中で、教育の在り方も大きく変化してきました。それは、社会情勢の変化とも連動していたと思います。例えば、会社に出勤しなくとも在宅で勤務をするリモート形態の普及です。これは、教育の世界でももてはやされました。「Webでの授業配信ができない学校なんて…」といった感が、社会全体に広まったように思います。でも、私自身はある種の違和感を覚えました。正直、「ようやく今になってか。」といった感じでした。

既に、今から10年前の段階でも、静岡市においては、小学校においても、校内にLAN環境が整備され、1クラスの児童が一斉に使用できるだけのMac bookが各小学校に整備されていました。しかし、残念ながら、これらが有効活用されていた小学校は、ごくわずかであったと思います。そこには、「パソコンを使った授業なんてできないよ。ましてやMacなんて。」といった、当時の教員の感覚があったと思います。ですから、パソコンを用いた授業形態を考える教員も少なく、教育手法の研究も進まなかった。残念なことに、これが現状でした。

そこに、新型コロナウイルス感染拡大による学校の一斉休校。「2か月も授業を児童・生徒たちは受けられない。」そうした教育界のひっ迫した情勢から、今までは教育現場で、避けられてきたパソコンを使い、Webベースでの授業が展開されるようになりました。

30代後半から、日々の授業の中でパソコンを使うことが当たり前であり、ほとんどすべての教材をデジタル化し、課題提出に関しても、生徒との間でSNSを駆使しながらやり取りをしていた私からすると、「困らないと自分の教育スタイルを変えようとする教育の世界の現状」を、痛感させられました。

しかしながら、同時に、こうした教育手法が、有効活用できる段階は、少なくとも小学校教育からではないかと思いました。私たちが、現在身を置いている幼児教育の場において活用できる場面もあるかと思いますが、置き換えられるところは少ない。なぜならば、幼児教育の世界で学ぶことの主たる部分は、「非認知能力」の世界であり、小学校から徐々に学んでいく

「認知能力」の世界とは違うものだからだと考えたからです。

とはいえ、一部の幼児教育施設では、教師や保育士の方々による動画配信やテレビ会議（電話）による子ども達の接点を作り上げようとした努力も見られたことも事実ですし、教育活動の補完的な意味合いでの有効性はあると思います。

では、何故、「非認知能力」の世界では、そうしたデジタル手法の有効性が薄らぐのでしょうか。

昨年、私が、この「非認知能力」という言葉を、保護者の方々の前で使い始めたとき、「今年度の園長先生は、勉強のことばかり言う。」と言われたことがありましたが、「非認知能力」は、いわゆる勉強の世界とは違う形で身につけていく能力です。小学校からの学習は、評価段階で数値化されていくものですが、「非認知能力」は、簡単に言うと数値化できない「生きていくために必要な能力」のことで、より具体的に言うならば、「やり抜く力」、「自己肯定感」、「やる気」、「集中力」、「根が理強く頑張る力」、「自制心」、「理性」、「客観的思考力」、「判断力」、「行動力」、「リーダーシップ」、「協調性」、「思いやり」、「応用力」、「失敗から学ぶ力」、「創造力」、「工夫する力」など私たちが日常で、子ども達に「こんな力を持ってほしいな。」と感じていることです。

昨年4月の園内研修で先生方にお話ししたことは、「非認知能力をつけるといっても、何か新しいことを特別に私からやってくれというわけではなく、すでにこの幼稚園の中でやられている活動は、その能力を付けられることばかりです。もう少し、こんな点を加えるともっといいということもありますが、先生方は、今までやってくれてきていることを、自信を持って続けてやってください。私からお願いすることがあるとしたら、それぞれの活動の中で、先生方が非認知能力という言葉意識していてくれるだけで、子ども達の成長の度合いが大きく変わると思います。」ということでした。

保護者方のお話によく出ることは、「この幼稚園は、色々な事を経験させてくれる。」ということです。まさに、おっしゃる通りで、たくさんの園内・園外の教育活動を展開していく中で、子ども達は、様々な障害を乗り越え達成していくことで、生きていくに必要な力を身につけています。本園での様々なイベント（ごっこ遊び、運動会、作品展、発表会、遠足、リレー等）をお子さんが経験していくごとに、きっと保護者の方々には、お子さん達の成長を感じてくださっているかと思います。こうした「非認知能力」は、人との接点が希薄になりやすいデジタルな世界では、幼児期においては、中々身につけにくいものではないでしょうか。やはり、人間関係は、最終的にはアナログな世界から生まれるものだと思います。

昔話になりますが、高等学校勤務時代に、当時の校長先生に「今年の研修は、ベンチャービジネスの社長シリーズでいきませんか。」と提案したことがありました。その中で、当時マイクロソフトのビル・ゲイツが、「自分の資産の一部を、世界中の教育のために使ってくれ。」とあって資産を提供した事があり、その資金の日本での運用・配分を任されていた西野弘さんという方に校内研修をお願いしたことがありました。そのような方ですから、世界中を飛び歩

いているような生活をされていましてので、連絡方法は常にメール。世界のどの国にいるかわかりませんので、お互い24時間体制の連絡で、研修内容を詰めていきました。そのようなやり取りのメールの中で、お互い考えていることや理想は何か、今後の社会はどう動くのか等について語り合っているうちに、「早くこの人にお会いしたいな。」といった気持ちが強くなってきました。

そして、研修当日静岡駅まで迎えに行き、この方を紹介してくださった社長さんと一緒に、新幹線のホームから改札口に降りてこられたのが見られたので、慌てて名刺を用意しなければと思っていたら、西野さんが改札を出て、すぐに私のところまで駆け寄り、力強い握手と共にいった言葉が、「青島さん。あんた毎日生きていて楽しいでしょう。」で、私から「西野さんも同じでしょう。」と即座に返しました。この時以来、「手法はデジタル。でも、人間関係はアナログ。」というのが私の考え方の中に生まれました。メールのやり取りの中でも、お互いの気持ちが伝わる関係が構築できたからだと思います。また、こんな関係が生まれたのも、互いの幼児期からの生育環境で、「非認知能力」が育っていたからだと考えます。ですから、社会環境がパソコンやスマートフォンを使ってWebベースで様々な事が完結できるような時代になっても、幼児期においては、まず、たくさんの人と触れ合いながら多くの経験をして、その中から自分なりに生きる力を学んでいくことが重要ではないかと考えます。是非、各ご家庭においても、お子さん達との触れ合いを大切にしてください。

最近、お子さんたちが「園長せんせ〜。」と言いながら駆け寄ってきてくれたり、私のおなかを指で押しながら、「プヨプヨしてる〜。」と嬉しそうにしてくれています。特に今年度は、書類仕事で園長室にこもっていることが多い状態の中、こんな場面になると、こんな環境にいられる自分は、幸せだなと感じさせてもらっています。幼児期であれ、大人の社会であれ、まずは人間関係の構築が大切だと思います。

長くなりましたが、最後に、私が本年度『リビング静岡』に掲載している12月号のコラムの文章を載せ、新年のご挨拶とさせていただきます。

スマホ時代の子育て—その1—

「まだ未就園児の年齢ですが、子育てでどんなことに気を付けたらいいのでしょうか？」

幼児教育の現場にいて、お子さんの表現力の差が大きくなっているように感じます。これはスマホ全盛時代の中で、幼児期の子どもさんでもスマホに触れていて、親子で会話する機会が少なくなっていることが、原因のひとつではないでしょうか。

では、どのような事を意識した子育てをしたら良いのでしょうか。特別なことではないと思いますが、「絵本を一緒に読んであげて、子どもと絵本の内容について話す」。或いは、「公園で一緒になって遊ぶ」。はたまた、「散歩をしながら四季の変化を共に感じ、さむくなった

ねと声をかける」といったことで、お子さんとの接点を多くし会話することが大切だと思います。そのような触れ合いの中で、お子さんの感じ方や考え方を親として受け止め、お子さんに言葉を返していく。こうした親子関係の中から、子どもさんたちは、様々な表現の仕方を学んでいくのではないのでしょうか。（『リビング新聞』12月24日号より）

園長 青島範明



1月の主な行事予定



- ・ 7日（金） 新年の会（予備日11日（火））
- ・ 12日（水） 年少浅間山遠足（予備日18日（月））
- ・ 13日（木） 年中日本平ハイキングコース遠足（予備日19日（火））
- ・ 15日（土） 園庭開放日
- ・ 21日（金） 洞慶山遠足
徒歩通園児送迎（年長のみ全員15：30お迎え）
- ・ 24日（月） 年長保護者参観会
- ・ 預かり保育のできない日・・・14日（金）17：00以降・17日（月）



2月の主な行事予定

- ・ 15日（火） 年少発表会
- ・ 16日（水） 年中発表会
- ・ 17日（木） 年長発表会
- ・ 24日（木） 年長お別れ遠足

